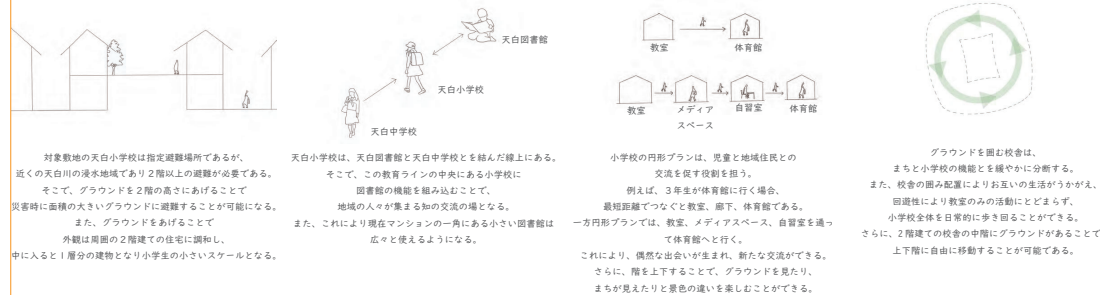


“higher is more”

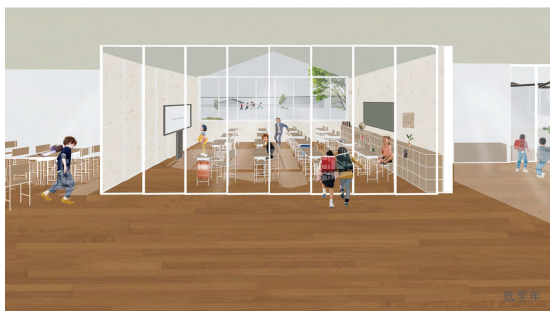
敷地条件から周囲より1層分上げたグラウンドは、時に災害から市民を守り1階と2階をつなぐ中間階の役割を果たす。また、内と外で変化する校舎のスケールは、子どもたちの6年間の生活を豊かにする。



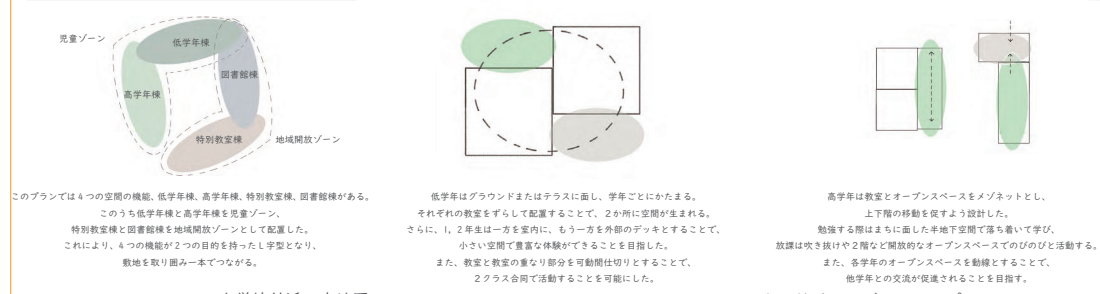
ダイアグラム



学区地図



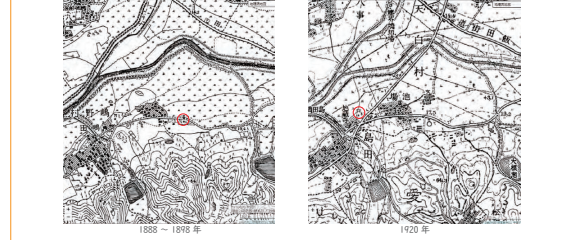
ゾーニング



オープンスペース



小学校付近の古地図



1888～1898年の地図では、現在の小学校付近に地蔵寺が1920年の地図で天白川から離れた現在の位置に移ったことがわかる。また、1898年頃までは、家が建っていたのは年魚市場の陸揚部分の島田がほとんどで、小学校の場所は地盤が低く、田んぼだったことがわかる。

天白川付近のハザードマップ



天白小学校は2リ帯で、2階以上に避難が必要である。また、学区内では池や川の水位が高くなることから、川が枝分かれしている部分は稲田との分岐点であり、予期しない流れの氷の塊が起ることが懸念される。

名古屋市立天白小学校
1907年(明治40年)開校

天白区は昭和50年に昭和区から分離独立した区で、名古屋で最も新しい区である。昔は農村地域であったが、平針住宅、島田住宅、相生山田などの大規模な集合住宅の建設や地下鉄、市バスなどの整備によって住宅街となった。

学区の名所

- ・天白川:学区の北を流れる天白川は2級河川であり、伊勢湾へとつながる。2000年の東海豪雨にて河川周辺が浸水し、大きな被害をもたらした。
- ・島田地蔵寺:1442年、島田高徳院として天白小学校の近くに建てられたが、天白川の洪水により今の場所に再建された。
- ・天白公園:学区内にある天白公園は26.5haであり、区内で最も広い公園である。

地名の由来

- ・天白:北東から南西へと貫流する天白川から名付けられた。
- ・島田:古代、年魚市場の海浜には起伏があり、隆起していた場所は島であった。年魚市場の進化によりできた土地が嶋つ田であり、その後島田となった。



